

第5回検討部会における意見等への対応について

No.	質疑内容	対応	資料
1	<p>【各地域での熱環境の違いについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田橋・富士見地域で表面温度ランク数値が高くなっている。このような変化について、各地域に関してその要因を考察するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表面温度ランク数値の増減の理由をまとめました。 	参考資料2
2	<p>【熱中症による救急搬送人員について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千代田区の熱中症による救急搬送人員に関し、屋外道路交通施設の救急搬送発生について、具体的な場所がわかると、より効果のある対策がたてやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京消防庁より、具体的な発生場所別のデータは、人数が少ないため個人が特定されてしまう場合があります、提供が難しいとの回答がありました。 	—
3	<p>【熱中症発生時間の千代田区の特徴について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千代田区の熱中症発生時間のグラフには、東京都全体の富士山状のグラフに比べて外れ値がある。通勤時間での発生など、千代田区特有の特徴があれば、検討を深堀するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の調査では、令和3年度の結果を確認し、東京都と千代田区の時間帯による救急搬送人数については、傾向が違っていたことがわかりました。令和4年度の結果も確認したところ、令和4年度では時間帯による傾向の違いはありませんでした。 	参考資料1
4	<p>【報告書のまとめについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書に関して、まとめを記載するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の検討部会で配布しました報告書は、昨年度に実施した現状調査・検証の結果のみをまとめたものとなります。 そして、報告書の結果を踏まえたまとめというのはヒートアイランド対策計画見直しへ向けた方向性となります。 	—
5	<p>【空中写真の解像度について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書の空中写真で、解像度が悪いものがあるが、解像度の良いものに差し替えた方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解像度の良い空中写真がなかったため、資料にその旨の説明を記載し、区のホームページに公開しました。 	—
6	<p>【対策効果の表現について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒートアイランド現象が緩和されたという書き方は避け、ヒートアイランド現象の対策効果が確認できたという表現とするべきである。また、誤記などを修正すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の内容に資料を修正した上で、区のホームページに公開しました。 	—

7	<p>【適応策の視点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒートアイランドの最も問題な点は熱中症である。熱中症予防などソフト面の視点に重きをおき、対策計画を策定するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施策にソフト面も含めて検討しました。 	資料2
8	<p>【まちづくりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに関しては、まちづくりとして全体的に記載するだけではなく、地域の特性に考慮した記載をするとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに関しては、全体的な記載だけでなく、地域別にそれぞれの特性を考慮した上で、対策などに記載しました。 	資料2
9	<p>【地域別の特徴の検討について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域別の特徴について、建ぺい率、容積率、緑被率など数値的な検討を行うと対策内容が見えてくると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別の人口や建物の延床面積などの数値的な変化を整理した上で、対策をまとめました。 	参考資料2
10	<p>【前計画との違いについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の計画が、前回の計画と比べてどこが違うのかを強調できるような構成案にするとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の計画との違いとして、用途別や地域別の対策を新たに追加しましたので、そのことがわかる構成としました。 	資料2
11	<p>【対策計画の見直しについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口が急増した地域の熱環境の変化やグロス建ぺい率、建物の延床面積の数値変化や用途内容、道路幅員の関係などの様々な数値的な分析を行うべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別の対策については、把握できる人口や建物の延床面積などの数値の変化を整理した上で検討しました。 	参考資料2
12	<p>【日陰について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日陰、風、ミストなどは人が涼感を感じる要素として検証されました。これらの要素については、都市の中でどのようにデザインするか3D都市モデルなどの活用により検討できないか。 ・デジタル技術を活用し、これらの情報提供のあり方も検討することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の検証で活用しました3D都市モデル（PLATEAU）などのデジタル技術について、今年度は活用できないため、今後、検証する必要があった際に検討いたします。 	—